

1 児童・生徒の学びをサポートするICT活用

(3) 児童・生徒の能力や特性に応じた学び

授業のユニバーサルデザインの視点からのICT活用

こんな実践

資料や地図をもとにして、西アジア地域が石油資源によって発展してきたことを理解していく授業場面で、プロジェクターを使って、西アジアの航空写真や考えるための資料を提示したりしながら、生徒の学びを促した実践です。

実践学校 S中学校

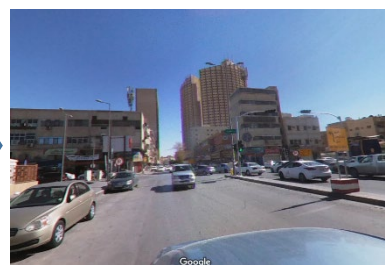
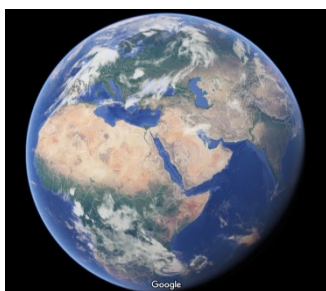
実践学年 1学年

実践時期 6月中旬

単元・題材名 「世界の諸地域」

学習指導要領との関連 B 世界の様々な地域(2) イ(ア)

- 授業が始まり、生徒たちの視線が前方のプロジェクターにくぎ付けになりました。黒板横の設置型プロジェクターには、地図アプリを使い、地球のはるか上空から一気にサウジアラビアの首都リヤドに接近していく映像が映し出されました。青い地球から徐々に赤茶色い地面に近付いていき、砂漠に囲まれたリヤドの近代的な建物のたたずまいや緑あふれる公園の風景へと変わっていきました。
生徒の中に「砂漠の真ん中に、どうしてこんな近代的な町があるのだろうか？」という問いが生まれてきました。



(地図アプリ)



ここがポイント!

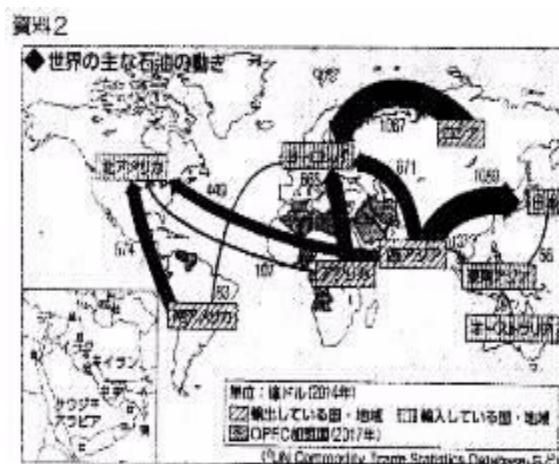
・生徒の興味・関心や問いをもたせるため、導入場面でICT機器を使う場面が見られます。特に視覚優位の生徒にとって、映像による問題提示はとても有効に働きます。授業者は教材研究を十分に行い、映像資料が最も効果的に働くであろう導入場面を考えました。生徒を学びの世界に導くためには、確かな生徒理解と共に綿密な教材研究が不可欠であることが、この事例から見えてきます。

○ 「先生、資料が見にくいです」と生徒から突然上がった声。ドキッとしませんか。F先生は慌てた様子も見せず、すかさず設置型プロジェクターで生徒に配布したのと同じ資料を大きく提示しました。生徒の手元にある資料は白黒印刷でしたが、プロジェクターに映し出された資料はカラーで示しています。

手元に資料があった方が考えやすい生徒もいれば、資料との距離が多少あってもカラーで示された資料の方が理解の進む生徒もいます。それぞれ考えやすい資料と向き合いながら学習が進んでいきました。



(プロジェクターに示された資料)



(手元に配られた資料)

💡ここがポイント!

・資料と向き合ったときに、文字情報を優先的に認識していく生徒、色彩を優先的に認識していく生徒、記号等を優先的に認識していく生徒、様々な姿が予想されます。最初は全員同じ提示の仕方でも構いませんが、生徒の声に応じて同じ資料を複数の方法で提示できるようにしておくことは、授業準備の大事な点です。

👉まとめ

・子供の学び方は一人一人違っています。そして、どの子も学びたい・わかりたいという意欲をもっています。子供の実態を捉え、どんなことに対して困り感をもっているのかを把握し、ICTを活用することは、どの子供にも分かりやすい授業につながるということを踏まえ、効果のある活用方法を考え検討することが大切です。